

瑞光とモリモト医薬、協業

プラフィルム個包装 自動装置開発

瑞光とモリモト医薬（大阪市西淀川区、盛本修司社長）は、プラスチックフィルムのみを使った新たな医薬品個包装技術「ESOP（イソップ）」の自動製造装置の開発で協業する検討を始めた。イソップはモリモト医薬が開発した、錠剤やカプセルを柔らかいフィルムで1個ずつ包装する技術。イソップの形状を作る製袋装置から始め、瑞光はイソップ製造事業への参入も視野に入れる。その後、錠剤充填装置の開発も構想している。

従来の医薬品包装のPTPシートは、医薬品の形状に合わせ凸型に成形した固いプラス

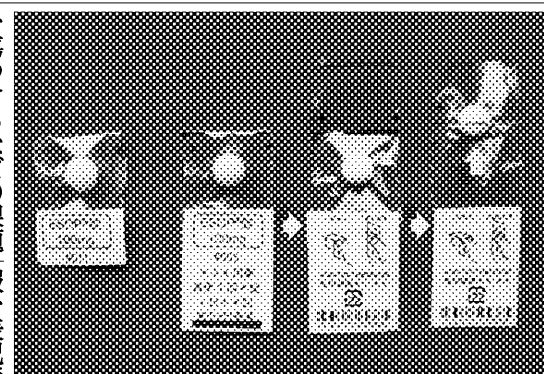
チックシートとアルミ

ニウム箔を使用。薬の

取り出しに力が必要に

ある。イソップは柔

軟なフィルムを使用。袋



ESOPは、情報表示したフィルム包装を取り出せる

らかなフイ

ルムのため

誤飲しても

体内を傷つ

けにくい

上、個包装

ごとに成分

名や使用期

限などの情

報を表記で

きるため残

技術を生かす考えだ。

状のため形状に依存せず複数の製品で同じ包装が使える、効率化も期待できる。

現在、モリモト医薬

は手作業を含む半自動

でイソップのサンプル

を製造。商用生産の医

薬品への採用には自動

化が不可欠で連携先を

探していた。瑞光は紙

おむつや生理用品、マ

スクなどの衛生用品の

製造装置を手がける。

イソップの狙いに共感

し、自社の技術やノウ

ハウの活用が可能と考

え名乗りを上げた。材

料を高速で搬送・加工

する多軸制御を得意と

し、材料の折り曲げや

シール技術も駆使す